

日本鉄鋼協会記事

理事会

53年度第3回理事会 開催日: 7月20日。出席者: 荒木会長、ほか38名。

1. 定款第11条中一部変更に関する件

定款第11条正会員は理事会の承認を経て入会するもの、または団体であつて、入会金700円および会費年額7000円を納めるものとする。

変更案

定款中第11条中入会金700円とあるを800円に、会員年額7000円とあるを8000円に変更する。

(昭和54年1月1日より実施)

上記の通り変更案を決定した。

2. 臨時総会招集の件

日時 昭和53年10月3日(火) 9:00~

場所 富山大学教養部

議題 定款第11条中一部変更に関する件

上記の通り臨時総会を招集する事を決定。

企画委員会

第2回委員会 開催日: 7月14日。出席者: 河西委員長、ほか16名。

1. 日本、スウェーデン合同シンポジウム開催の件

本年12月4, 5日経団連会館において開催する予定。スウェーデン側からはエケトルプ教授他約10名の参加者を予定している。日本側は大学、会社から若手の参加者70名以内に絞り、こじんまりした充実したシンポジウムにしたい。尚経費約100万円は予備費より支出することになった。

2. 事務室にテレックス設備架設の件

当初経費として債券60万円、設備費用13万円位が必要である。なるべく早く設置することを決定した。

研究委員会

昭和53年度第3回委員会 開催日: 7月19日。出席者: 不破委員長、ほか18名。

1. 國際会議について

次の2件の国際会議の開催について、概要が事務局より報告され、目的、内容等の質疑が行われた。

- (1) 日本・スウェーデン合同シンポジウム

1978年12月、東京予定

- (2) 第1回圧延に関する国際会議

1980年9月、東京予定

2. 基共研新規テーマについて

6月22日の基共研運営委員会におけるテーマ案審議状況が報告され、この結果について検討を行つた。鉄鋼協会として2案をえらび、委員長候補を各委員より提案していただくことになった。

編集委員会

運営委員会 開催日: 7月21日。出席者: 長嶋委員長ほか9名。

1. 和文会誌分科会、欧文会誌分科会、講演大会分科会、出版分科会より、活動報告がなされた。

2. ヘンダーソン賞候補論文につき校閲者を決定した。

第6回和文会誌分科会 開催日: 8月11日。出席者: 長嶋主査、ほか17名。

1. 21件の論文審査報告がなされ、掲載決定17件、照会後掲載可2件であつた。

2. 「鉄と鋼」第64年第14号(12月号)に論文13件、技術報告1件、特別講演1件掲載決定した。

第6回欧文会誌分科会 開催日: 8月9日。出席者: 橋口主査、ほか7名。

1. 5件の論文につき審査報告がなされ、掲載可2件、照会後掲載可3件であつた。

2. 「鉄と鋼」64年8号より、4件の研究論文と2件のReport、64年9号より、1件の研究論文と1件のLecture、「鉄と鋼」以外の国内雑誌より3件の研究論文及びその他1件の研究論文を勧誘することとなつた。
-

共同研究会

鉄鋼分析部会

第53回鋼中非金属介在物分析分科会

開催日: 8月9日。出席者: 宮本主査直属幹事、ほか13名。

本分科会では、現在進行中の鋼中炭化物抽出用標準試料に関する共同実験の内

1. 430 Type 不鏽鋼

2. Fe-M-C系試料

- 1) Fe-Mo-C系

- 2) 実用鋼

の共同実験のまとめと異常値などに対する追加確認実験についての報告が行われた。

尚、上記テーマについては昭和53年度中に研究終了となる予定であるため、それ以後の研究テーマについて討議が行なわれた

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第4回EC分科会 開催日: 7月28日。出席者: 山南主査、ほか9名。

1. ISO/TC17/EC 第3回国際会議報告

2. ISO/TC17 幹事国に関する今後の対策

第8回SC16分科会 開催日: 7月21日。出席者: 山南主査、ほか15名。

1. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

2. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

3. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

4. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

5. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

6. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

7. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

8. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

9. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

10. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

11. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

12. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

13. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

14. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

15. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

16. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

17. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

18. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

19. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

20. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

21. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

22. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

23. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

24. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

25. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

26. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

27. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

28. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

29. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

30. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

31. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

32. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

33. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

34. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

35. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

36. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

37. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

38. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

39. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

40. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

41. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

42. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

43. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

44. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

45. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

46. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

47. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

48. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

49. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

50. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

51. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

52. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

53. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

54. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

55. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

56. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

57. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

58. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

59. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

60. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

61. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

62. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

63. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

64. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

65. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

66. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

67. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

68. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

69. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

70. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

71. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

72. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

73. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

74. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

75. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

76. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

77. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

78. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

79. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

80. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

81. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

82. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

83. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

84. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

85. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

86. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

87. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

88. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

89. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

90. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

91. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

92. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

93. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

94. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

95. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

96. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

97. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

98. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

99. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

100. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

101. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

102. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

103. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

104. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

105. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

106. ISO/TC17/SC16 第2回国際会議報告

107. ISO/TC17/SC1

下部主査、ほか 8 名。

議題 ISO/TC5/SC1 オスロー国際会議対策

第5回 TC164 分科会 開催日：7月28日。出席者：川田主査、ほか 19 名。

議題 ISO/TC164 総会、TC164/SC1 第2回会議、
TC164/SC3 第2回会議対策

データシート部会

第3回破壊非性データシート分科会

開催日：7月20日。出席者：金沢主査、ほか 13 名。

議題 1. フォーマットの作成

2. 対象鋼種及び形状の決定

3. WES, NK鋼種認定データの取扱い

4. 趣意書の検討と送り先の決定

第1回微小硬さ試験方法 JIS 原案作成分科会

開催日：8月3日。出席者：川田主査、ほか 22 名。

(1) 試験方法規格との関連から基準片規格まで検討するかどうか。

(2) 現行 JIS Z2244 ピッカース硬さ試験方法の中に含めるか、独立規格とするかどうか。

(3) ヌーブ硬さ試験を取扱うかどうか。

(4) 微小硬さ試験の最小荷重、最大荷重をいくつにするか。

材料研究委員会

第30回委員会 開催日：7月20日。出席者：鈴木幹事長、ほか 8 名。

当委員会は焼入性の評価方法について 50% マルテンサイト硬さを測定しこれをインデックスとして検討しているが、問題点として次のものが出来、調査することになった。

1. インデックスとしてジョミニー曲線の変曲点を採用して検討する。

2. 焼入性に及ぼす各元素の影響には元素間の交互作用が認められるのでその程度をチェックする。

3. 溶体化不充分の試料のデータをチェックする。

鉄鋼基礎共同研究会

特殊製鍊部会

第12回部会第2分科会 開催日：7月27日。出席者：相山主査、郡司第3分科会主査、ほか 13 名。

1. 研究発表 3件の発表があり、活発な質疑応答が行われた。

(1) 40t ESRにおける使用後の電極先端調査、(2) ESR電極先端の性状、(3)スラグ組成とプールの関係

2. 部会最終報告書について

第2分科会担当分の章、項の題目を決定するとともに各委員が今までに発表した資料をどの程度のページ数にまとめられるか検討した。

3. 用語について

検討を進めてきた ESR用語については最終報告書に

入れることとし、完全を期するため、小委員会を作り、検討することになった。

第12回部会第3分科会 開催日：7月28日。出席者：郡司主査、ほか 13 名。

1. 研究発表 次の2件の発表が行われ、活発な質疑応答がなされた。

(1) ESRインゴットの数学モデルによる解析、(2) ESRインゴットの凝固過程の解析(IV)

2. 文献紹介、ソ連の ESRに関する文献が2件紹介された。

3. 最終報告書について

第3分科会担当の章、項目の題を検討した。次に各委員が今までに発表した資料を何ページ程度にまとめられるか調査し全体のページ数決定の参考とすることとした。

第15回部会第6分科会 開催日：7月27日。出席者：尾上主査代理、ほか 7名。

1. ESR文献集第3集

(1) 内容分類の分担および次の点を決定した。

(2) 第1集、2集未収録文献を再度調査し、極力収録につとめる。

(3) 第1～3集の総索引を第3集につける。

2. 特殊精鍛法第2集

(1) 収録モレを少くするため、各委員の自社保有プロセスに関する資料を見直す。

(2) 文献リストの整理を9月末までに行う。

3. ESR溶製材材質データ集

(1) 仮原稿作成にあたって問題点を抽出し、細かい点を定めた。

(2) レイアウトは次回検討

微量元素の偏析部会

第11回部会 開催日：6月14日。出席者：須藤部会長、ほか 16 名。

本部会では、4件の研究発表の他東北大学金属材料研究所小倉次夫助教授による「低合金 Ni-Cr 鋼におけるPの粒界偏析」についての講演が行なわれた。

尚、本部会は昭和53年度で研究活動を終了する予定であり、終了事業としてのシンポジウム、総合報告書の作製について部会長案が説明され承認された。

高温変形部会

第6回部会 開催日：8月10日。出席者：田村部会長ほか 33 名。

1. 講演

(1) 速度論を基礎とした金属の高温変形抵抗の推定法と加工過程の応力解析への応用

(2) ねじり変形した金属における温度、歪速度及び歪の分布

(3) SUS 630 (17-7 pH) の熱間加工性に及ぼす化学成分の影響

(4) オーステナイトステンレス鋼铸造試料の熱間圧延による組織変化

(5) 3%Cr-0.8%C 鋼のミクロ偏析と再結晶挙動に及ぼす熱間加工の影響

2. 協議事項

(1) 部会の運営を円滑に行うよう運営委員会を構成する。

(2) 来年2月14日(予定)シンポジウムを開催する。

(3) 文部省科学研究費を申請する。